

第4回福知山市行政改革推進委員会 議事録

日時:令和6年11月25日(月)

午後4時から

場所:市民交流プラザ4-1

■ 出席者

【委員（敬称略）】

井上 拓、深尾 昌峰、村尾 慎哉

※委員は全員オンライン参加

【市】

市長公室長、市長公室次長、経営戦略課長

1 議事

(1) 令和6年度 二次レビューの結果を踏まえた改善対応について

委員

二次レビューを踏まえた改善対応について、前回、委員会の議論の結果から改善対応をまとめていただいている。内容についても、大きく異論はない。細かいところから大きいところまで反映をいただき、来年度の方向性や方針の改善対応をまとめていただいたと感じている。

今後、試行錯誤が必要だと思ったことは、前回もコメントさせていただいたが、更なる市民参画の促進について、何を実施すれば効果が出るか見通せるものでないと思うため、難しいテーマではあるが、何か1つ実施したから終わりではなく様々な工夫をいただき、来年度の結果を踏まえ、中長期的な視点を持って対応いただきたい。（仮称）2040年市民会議、次期まちづくり構想の策定にも繋がっていくものと考えているため、広報発信は広い視点、長期の視点を持って取り組んでいただきたい。

質問になるが、（仮称）2040年市民会議について、現「まちづくり構想 福知山」は大きな計画を策定されているが、次期「まちづくり構想 福知山」に向けて比較的大掛かりな議論をして、大きく施策や施策体系、政策を見直していくのか、それとも、現計画を土台として、軌道修正をするのかどちらを考えているか。

市

現時点でお答えできないこともあるが、（仮称）2040年市民会議は市民の皆さんに議論いただき、2040年の姿を想像いただく中で、課題に対応するための方向性を議論いただく。議論については、現在のところ自由度を持たした議論をいただき、それを次期「まちづくり構想 福知山」の土台とするイメージで考えている。現状ではわからないところではあるが、そこで出た意見を踏まえてどうしていくか、また現計画の建て付けや内容を見て考えていく。地域の未来予測に基づいて、福知山市がどうあるべきかを計画に繋げていきたい。

委員

4ページ目を確認させていただきたい。施策レビュー(2次レビュー)当日進行のスケジュールを変更しているが、令和7年度(案)の2番目「政策目標の実現に向けた課題及び課題解決に向けて取り組む事業等の説明」は、重点事業についての説明となっているが、重点事業の説明

は、令和6年度では4番目「課題解決に向けて取り組む事業の説明、質疑応答及び議論」で実施している。従来の令和6年度の2番目「政策目標の実現に向けた課題及び課題解決に向けた取組み状況について」と3番目「質疑応答及び議論」の部分を、少し割愛して4番目からスタートするイメージで良いのか。

市

イメージは、今年度は事業説明を後半にもってきっていたが、令和7年度(案)では最初に事業の議論を行い、事業の説明の後に施策を論じていくこととした。主となる事業の説明から、施策の状況を説明するイメージで考えている。

委員

令和7年度(案)に記載されている、3番目「質疑応答及び議論」のコーディネーター・施策改善推進委員の検討内容、各事業の課題認識や取組の方向性について議論を行うことでよろしいか。

市

各事業というよりは、事業の内容も含めた施策全体の議論をしていただく。そのため、主たる事業の説明と施策全体の説明後に議論いただくイメージをしている。

委員

令和7年度(案)の2番目は「政策目標の実現に向けた課題及び課題解決に向けて取り組む事業等の説明」を行い、次に3番目「質疑応答及び議論」を行うのであれば、事業等がメインになってしまうのではないか。その関連性が不明瞭になっているのではないかと思う。2番目で事業の説明をして、3番目で施策の議論をするのか。どう考えたらよいのか。

市

わかりにくくて申し訳ない。2番目の「政策目標の実現に向けた課題及び課題解決に向けて取り組む事業等の説明」では、課題解決に向けて取り組む事業は、体系シート等にて事業の説明をする。その後、その事業を含む政策目標、施策について、どのように取組を進めるか説明する。

最初に具体的な主たる事業である重点事業を説明し、施策全体を説明した上で議論を実施したいと考えている。

委員

2番目は、事業及び施策の説明で良いのか。

市

そうである。

委員

(仮称)2040年市民会議・次期まちづくり構想の策定について質問する。「まちづくり構想 福知山」を目標として進める中で、次期構想は2040年をめざして議論されると思うが、現計画との時系列を線で考えていかないと、現計画と全く別の議論の方向になってしまう

う。現計画と次期計画の関連性が弱くなると思うため、現計画が関連する時系列で次期計画を立てていくほうが望ましいと考えるが、どう考えているか。

市

次期「まちづくり構想 福知山」策定計画について、2040年問題を強調しすぎたかと思うが、現計画も2040年を見据えた計画になっている。具体的に2040年を想像できるようなデータとして、地域の未来予測が推奨されており、そのデータを示すことでどうなっていくのかを具体的に委員や市民に示して議論をいただきたいと考えている。その中で、現計画である「まちづくり構想 福知山」と同じ方向性を持つ部分や、新しく見えてきた課題、現計画から変わった内容は、市民会議の中で出てきた議論も併せて変えていきたいとイメージしている。策定については、（仮称）2040年の市民会議を実施しようとしている段階であり、具体的なことは申し上げられないが、（仮称）2040年市民会議と現行のまちづくり構想の繋がりはこのように考えている。

委員

4ページ目の当日進行の見直し部分に関して、令和7年度(案)の3番目の「質疑応答及び議論」が、次の4番目がいきなり休憩を挟んで「疑問点解消・意見の発表」となるため、3番目の議論が、事業についての議論、説明または質問と、施策そのものに関する有効性の議論が分かりづらくなるのではないかと思った。

今年度実施して良かったことは、前半の事業の説明後に事業の質疑応答をして、休憩後に視野を広げて施策の議論をすることがタイムキープとしてわかりやすかった。質疑応答及び議論を、事業と施策の説明を1つにまとめるのではなく、休憩をうまく挟んで、事業に関する質疑応答及び議論と施策に関する質疑応答及び議論という形で分けていただけると良いのかなと思う。4番目の「疑問点解消・意見の発表」をやることにはなと思うが、3番、休憩、4番の流れは整理をいただきたいと思う。

委員

同じ印象を抱いている。そこが整理されていないともったいないと思う。今年度は、事業と施策の切り分けをコーディネーターが自覚的に進行をいただいたことと、時間的なセグメントが分かれていたため、今何をしているのかが明確であった。そこら辺の工夫がいるかと思う。

市

ありがとうございます。我々も悩みどころで、今年度やった方式で時間が足りなくなったこともあったが、今回のノウハウを活用しより多くの施策を議論できないかということに振れてしまった。現時点で170分に戻すことは無いと思うが、来年度の準備にあたっては、対象となる施策をどうするか、コーディネーターや行革委員に相談しながら考えていきたいと思っている。今のところは事務局としては140分間で実施したいと考えている。

委員

140分はいいと思う。参加している人の頭が整理されるような、議論が混乱しないようにしていただきたい。140分で多くの施策をやることは問題ないと思うが、参加している側が施策と事業の議論が混乱しないように、休憩の入れ方や、時間配分のデザインをブラッシュアップしていただきたいと思う。